

放流魚の資源添加を考慮した資源評価手法

海区水産業研究部

研究の背景・目的

1. 我が国周辺の水産資源を適切に管理するには、再生産を考慮した資源量水準の的確な評価手法の開発が必要
2. 栽培対象種について、これまでは放流した人工種苗の回収率や漁獲重量で事業効果が評価
3. 栽培対象種の適切な資源管理を行うには、放流魚の資源添加と再生産を考慮した新たな評価手法の開発が必要

研究成果

1. マダイ太平洋中部系群を事例に、放流魚の資源添加および再生産を考慮した評価手法を開発
 - (1) 現在の放流尾数の条件下において最大の持続的生産量を達成するための漁獲係数を算定
 - (2) 漁獲係数、放流尾数および持続的生産量の関係から、漁業管理方策が決定可能

波及効果

1. 栽培対象種全般について、放流魚が資源変動に及ぼしている影響を再評価する必要性あり
2. 放流効果について、回収率ではなく、資源動向に与える影響という観点からの再検討を要す

マダイ太平洋中部系群における漁獲係数、放流数および持続可能漁獲量の関係

